



## 「宮崎の四季と気象

地域環境科学へのいざない」

内嶋善兵衛・竹前 彬・

岩倉尚哉・平木永二 著、

鉦脈社、2003年12月、329頁

定価2,500円（本体価格）

ISBN4-86061-079-2

本書は、宮崎の文化、歴史、自然、生活、産業などを紹介するシリーズ文庫の一冊として、宮崎を代表する地方出版社から発刊されたものである。宮崎の気象と季節の話題、暮らしへの影響を述べながら、地域の理解、生活と生産に役立つ内容となっている。

こう述べると本書が「宮崎」をキーワードとした地域限定の読者を想定した本と思われるかもしれないが、実はそうではない。読者は読後に「宮崎」だけでなく「地球人」の視野も獲得したことに気付くこと請け合いである。本書のサブタイトルとして「地域環境科学へのいざない」とあるように、宮崎特有の気象や環境、それに係わる生活や産業の話を展開しながら、それが宮崎という局所に留まらず、他の地域との比較や背景となる気象の仕組み、広域構造や環境との関連が述べられている。それらが相互に結びつくように項目が配置され、ズームイン、ズームアウトの効果が優れている。時には関係式を示して詳細に厳密に、また、直後には易しく平たく展開する話には引き込まれる。

本書は、4人の著者が宮崎の気象環境について体系的に知り、活用するために続けた勉強会をもとに取りまとめたものである。本書のはしがき冒頭で「地球上で生きるすべての生物にとって、環境はその生存を支える大きな働きをしている。その重要さは、科学技術を駆使して地球の主人公よろしく振舞っている人類にとっても同じである」と戒め、さらに「いま現在、人類は科学技術文明を謳歌しているが、地球全体および地域の自然環境は、静かにしかも確実に劣化し続けている」と危惧した上、「日本の各地域には、古くから四季の流れに順応した生産と生活のパターンがあり、それらが地域の特色として受け継がれてきた。これらの古くから伝承してきた地域の環境と生産・生活のパターンは、21世紀に各地域が生き生きと輝くための、貴重な資源ということが出来る」とある。つまり本書は地域気象の知識を提供するのが目的ではなく、地域

のことをもっと知り、地域のことをもっと理解して地域の価値に気付いてもらいたいとの観点で書かれたものである。

自分、あるいは地域の人間活動を、地球規模の環境へのかかわり、相互作用という視野で理解することは、両者の時間と空間の隔たりが大きいためなかなか難しいことであるが、環境保護や自然と人類の共生を図るにはそのような理解は不可欠である。本書の記述が宮崎にとどまらないのも、著者たちがすでに日頃そのような課題を意識し、行動している証しでもあろう。

それにしても「スポーツランド宮崎」の上空にひろがる青空、千切り大根を仕上げる寒風、神話の神様が行きかう山々の雲海など、宮崎の気象を豊富な資料で解き明かしてくれ、時には牙をむいて襲いかかりながらも宮崎の文化、歴史、生活、産業を支え育む気象の大切さに気付かされる。また、温暖な太陽と緑の国と呼ばれる宮崎の気象環境の記述で用いられる「温度資源」、「日射資源」という用語は、気象は自然の恵みという著者たちの心情の表れであろう。

内容は大きく3章に分けられ、章と節を紹介すると次のようになる。ここに示していないが各項の表題に「宮崎」というキーワードの出入りが多い。これはすでに紹介したように、「宮崎」という地域、局所にとどまらず広域の説明や仕組みの記述が適宜配置されているためである。なお、各章と付録の扉には宮崎を代表する風景写真が挿入されている。このような穏やかで美しい写真はもっとたくさん各節、各項ごとに挿入してもらいたかった気がする。

### 第1章 宮崎の四季

#### 第1節 四季の原因と日本の四季

#### 第2節 宮崎の四季

### 第2章 宮崎の気象環境

#### 第1節 日射環境

#### 第2節 温度環境

#### 第3節 水文環境

#### 第4節 風環境

### 第3章 農林業と気象

#### 第1節 総説

#### 第2節 農業と気象環境

#### 第3節 林業と気象環境

### 付録

(気象大学校 高崎洋見)